

令和2年産水稲の8月15日現在における作柄概況

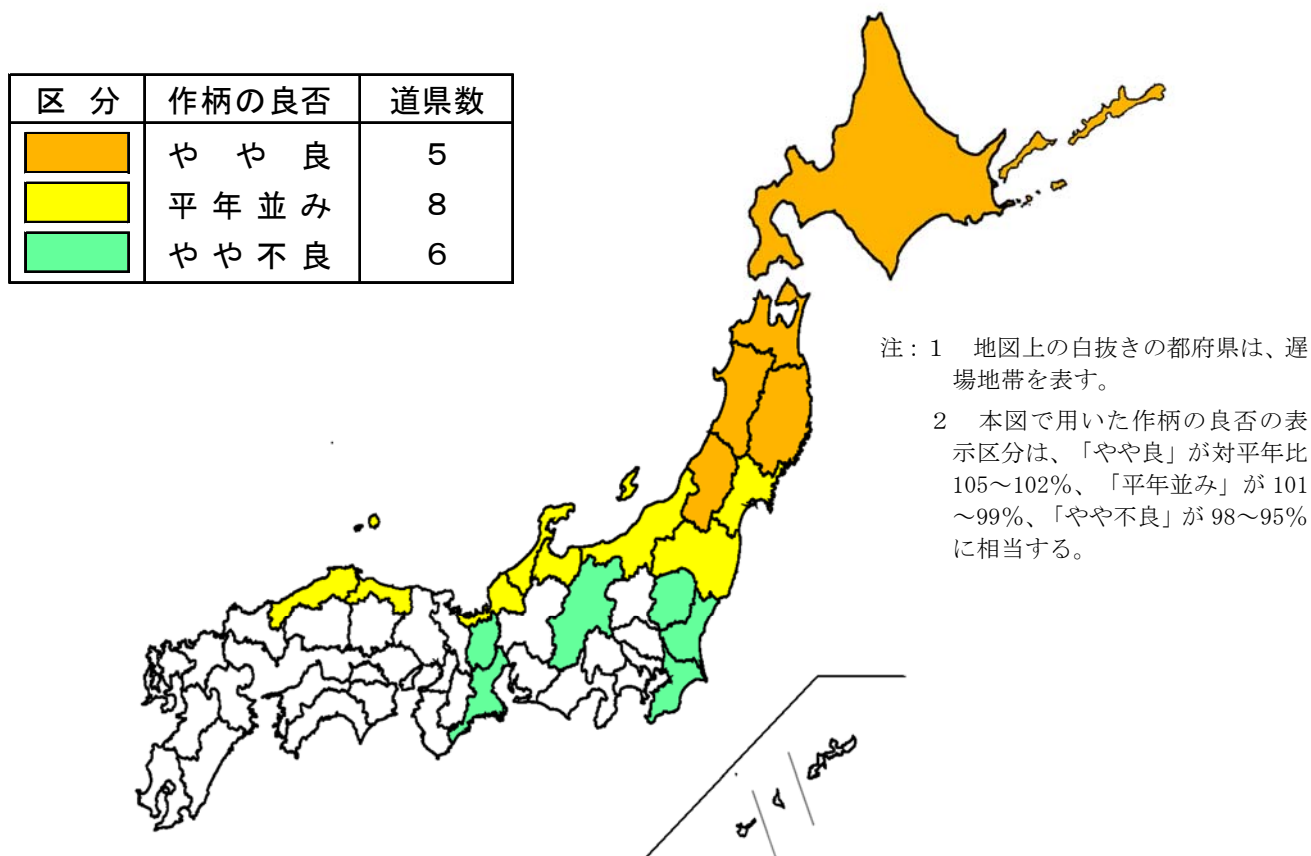
早場地帯の作柄は、北海道及び東北はおおむね「やや良」、
その他の地域は「平年並み」又は「やや不良」の見込み

【調査結果の概要】

東日本を中心とした早場地帯（19道県）の作柄は、北海道及び東北はおおむね「やや良」、その他の地域は「平年並み」又は「やや不良」と見込まれる。

これは、一部地域で7月の低温・日照不足等の影響が見込まれるものの、田植期以降おおむね天候に恵まれたことにより、全もみ数が一部を除き平年並み以上に確保されると見込まれるためである。

図1 早場地帯の作柄の良否



○ 作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行った。したがって、今後の気象条件等により変動することがある。

本資料は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【 https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y2 】

◎ 用語の解説及び特記事項

- ・ 早場地帯とは、8月15日現在の出穂済面積割合が平年ベースでおおむね8割以上を占める19道県である（令和元年産収穫量割合：71.2%）。
- ・ 遅場地帯とは、早場地帯の道県以外の都府県である（同：27.5%）。
- ・ 遅場地帯の水稲のうち、早期栽培の面積割合がおおむね3割以上を占める徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県における早期栽培並びに沖縄県の第一期稲は、西南暖地における早期栽培等として別に集計している（同：1.3%）。

◎ 水稲調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

◎ 累年データ

水稲（子実用）の年次別推移（全国）

年 産	作 付 面 積 (子 実 用)	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量 (子 実 用)	参 考		
				主 食 用 作 付 面 積	収 穫 量 (主 食 用)	作 況 指 数
	ha	kg	t	ha	t	
平成22年産	1,625,000	522	8,478,000	1,580,000	8,239,000	98
23	1,574,000	533	8,397,000	1,526,000	8,133,000	101
24	1,579,000	540	8,519,000	1,524,000	8,210,000	102
25	1,597,000	539	8,603,000	1,522,000	8,182,000	102
26	1,573,000	536	8,435,000	1,474,000	7,882,000	101
27	1,505,000	531	7,986,000	1,406,000	7,442,000	100
28	1,478,000	544	8,042,000	1,381,000	7,496,000	103
29	1,465,000	534	7,822,000	1,370,000	7,306,000	100
30	1,470,000	529	7,780,000	1,386,000	7,327,000	98
令和元年産	1,469,000	528	7,762,000	1,379,000	7,261,000	99

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である（以下同じ。）。

2 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

4 作況指数は、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
なお、平成26年産までは1.70mmのふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

【統計表】

1 令和2年産水稻の都道府県別田植及び出穂の状況（8月15日現在）

都道府県	田植期					出穂期					出穂済み面積割合	
	始期	最盛期	終期	最盛期の比較		始期	最盛期	終期	最盛期の比較		当年値	対平年差
				対平年差	対前年差				対平年差	対前年差		
月日	月日	月日	1日早	並み	月日	月日	月日	1日早	2日遅	%	ポイント	
北海道	5.19	5.23	5.30	1日早	並み	7.25	7.31	8.7	1日早	2日遅	100	0
青森	5.13	5.19	5.28	2日早	1日早	8.2	8.5	8.10	並み	1日遅	100	0
岩手	5.9	5.17	5.26	並み	並み	8.2	8.6	8.10	1日遅	2日遅	100	0
宮城	5.4	5.12	5.24	1日遅	1日遅	8.1	8.6	8.13	5日遅	4日遅	98	△1
秋田	5.13	5.23	5.30	1日遅	1日遅	7.30	8.3	8.9	1日早	1日遅	100	0
山形	5.13	5.19	5.26	並み	1日遅	8.2	8.6	8.14	1日遅	2日遅	97	△2
福島	5.8	5.16	5.26	1日早	並み	8.3	8.9	...	1日遅	並み	93	△3
茨城	4.26	5.7	5.25	1日遅	1日遅	7.22	8.2	8.14	4日遅	1日遅	97	△1
栃木	5.1	5.7	6.15	並み	1日早	7.29	8.4	...	5日遅	2日遅	89	△2
群馬	5.22	6.15	6.28	1日遅	1日遅	8.6	39	△4
埼玉	4.29	5.22	6.27	並み	1日早	7.26	8.12	...	2日遅	並み	61	△3
千葉	4.18	4.28	5.9	並み	1日早	7.10	7.21	8.3	2日早	5日早	100	0
東京都	5.24	6.10	6.24	2日早	1日遅	8.1	8.14	...	並み	1日早	56	△4
神奈川県	5.17	6.2	6.13	並み	1日遅	8.1	8.11	...	1日早	2日早	83	2
新潟	5.4	5.11	5.21	1日遅	1日遅	7.25	8.6	8.15	1日遅	3日遅	96	△3
富山	4.30	5.11	5.21	1日早	並み	7.12	8.5	8.15	4日遅	4日遅	98	△2
石川	4.30	5.5	5.23	並み	並み	7.17	7.30	8.6	1日遅	1日遅	100	0
福井	5.2	5.16	5.27	並み	並み	7.15	8.4	8.15	4日遅	2日遅	96	△2
山梨	5.13	5.27	6.17	1日早	2日早	8.6	8.11	...	3日遅	1日遅	70	△8
長野	5.12	5.22	6.2	並み	並み	8.1	8.9	...	3日遅	1日遅	92	△4
岐阜	5.2	5.28	6.11	並み	並み	7.21	47	△2
静岡	4.28	5.19	6.13	1日早	2日早	7.20	8.7	...	並み	2日早	70	1
愛知	5.1	5.24	6.10	並み	並み	7.26	42	△2
三重	4.17	4.30	5.19	1日早	1日早	7.14	7.22	8.9	1日早	5日早	98	0
滋賀	5.2	5.11	6.1	2日遅	1日遅	7.27	8.2	...	2日遅	2日遅	94	△1
京都	5.5	5.23	6.4	並み	1日早	7.23	8.2	...	並み	1日遅	82	△2
大阪	5.17	6.8	6.20	並み	並み	8.2	27	0
兵庫県	5.12	6.4	6.15	並み	1日遅	7.30	8.13	...	2日遅	2日遅	61	△2
奈良	5.6	6.7	6.14	1日早	1日早	7.31	30	0
和歌山	5.3	6.6	6.20	2日遅	2日遅	7.19	8.6	...	1日早	2日早	82	△2
鳥取	5.5	5.24	6.9	1日早	並み	7.29	8.9	...	3日遅	1日遅	77	△9
島根	5.1	5.12	6.3	3日早	4日早	7.21	8.3	...	4日遅	2日遅	89	△3
岡山	5.12	6.8	6.21	並み	並み	7.31	38	△3
広島	5.4	5.18	6.6	並み	並み	7.24	8.9	...	2日遅	1日遅	71	△2
山口	5.10	6.1	6.22	1日早	並み	7.30	8.12	...	3日遅	3日遅	56	△7
徳島	4.5	4.14	5.2	2日早	1日早	7.6	7.13	7.27	1日早	3日早	100	0
(普通栽培)	4.30	5.21	6.12	2日早	1日早	7.18	7.31	...	並み	並み	86	0
香川	4.27	6.14	6.27	1日早	並み	7.20	42	1
愛媛	4.23	6.2	6.22	並み	1日早	7.17	8.13	...	並み	1日早	58	2
高知	4.3	4.11	4.21	1日早	並み	6.23	7.2	7.19	並み	1日早	100	0
(普通栽培)	5.17	5.25	6.10	1日早	1日早	8.10	28	0
福岡	5.16	6.16	6.28	1日早	1日早	8.2	33	△1
佐賀	5.6	6.20	6.29	並み	並み	7.24	20	△5
長崎	4.20	6.14	6.28	1日早	1日早	7.17	14	0
熊本	4.22	6.14	7.4	1日早	1日早	7.14	24	0
大分	5.15	6.13	6.29	並み	並み	7.29	18	△2
宮崎	3.19	3.25	4.4	1日早	並み	6.19	6.24	6.30	並み	並み	100	0
(普通栽培)	5.29	6.14	6.27	1日早	1日早	4	1
鹿児島	3.17	4.2	4.16	2日早	2日早	6.16	6.26	7.15	並み	並み	100	0
(普通栽培)	6.9	6.20	7.1	1日早	並み	0	0
沖縄	2.5	3.2	3.20	4日早	1日早	4.22	5.21	6.14	1日早	2日遅	100	0

注：1 田植期及び出穂期の始期、最盛期、終期とは、田植及び出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。
 2 出穂期の始期、最盛期及び終期の欄の「…」は、8月15日現在でそれぞれの期日に達していないことを示す。
 3 出穂済み面積割合の対平年差欄の「△」は、平年より少ないことを示す。

2 令和2年産水稻早場地帯の作柄概況（8月15日現在）

区 分	作柄概況（平年比較）				
	作柄の良否	穂数の多少	1穂当たり もみ数の多少	全もみ数の多少	登熟の良否
北 海 道	やや良	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良
青 森	やや良	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み
岩 手	やや良	やや多い	やや少ない	やや多い	平年並み
宮 城	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
秋 田	やや良	やや多い	やや少ない	やや多い	平年並み
山 形	やや良	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み
福 島	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み
茨 城	やや不良	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み
栃 木	やや不良	平年並み	平年並み	平年並み	やや不良
千 葉	やや不良	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良
新 潟	平年並み	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み
富 山	平年並み	多 い	やや少ない	やや多い	やや不良
石 川	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
福 井	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
長 野	やや不良	やや少ない	やや多い	やや少ない	平年並み
三 重	やや不良	少 ない	やや多い	やや少ない	平年並み
滋 賀	やや不良	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み
鳥 取	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
島 根	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み

注： 本表における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106%以上、「やや良・やや多い」が105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや不良・やや少ない」が98～95%、「不良・少ない」が94%以下に相当する。

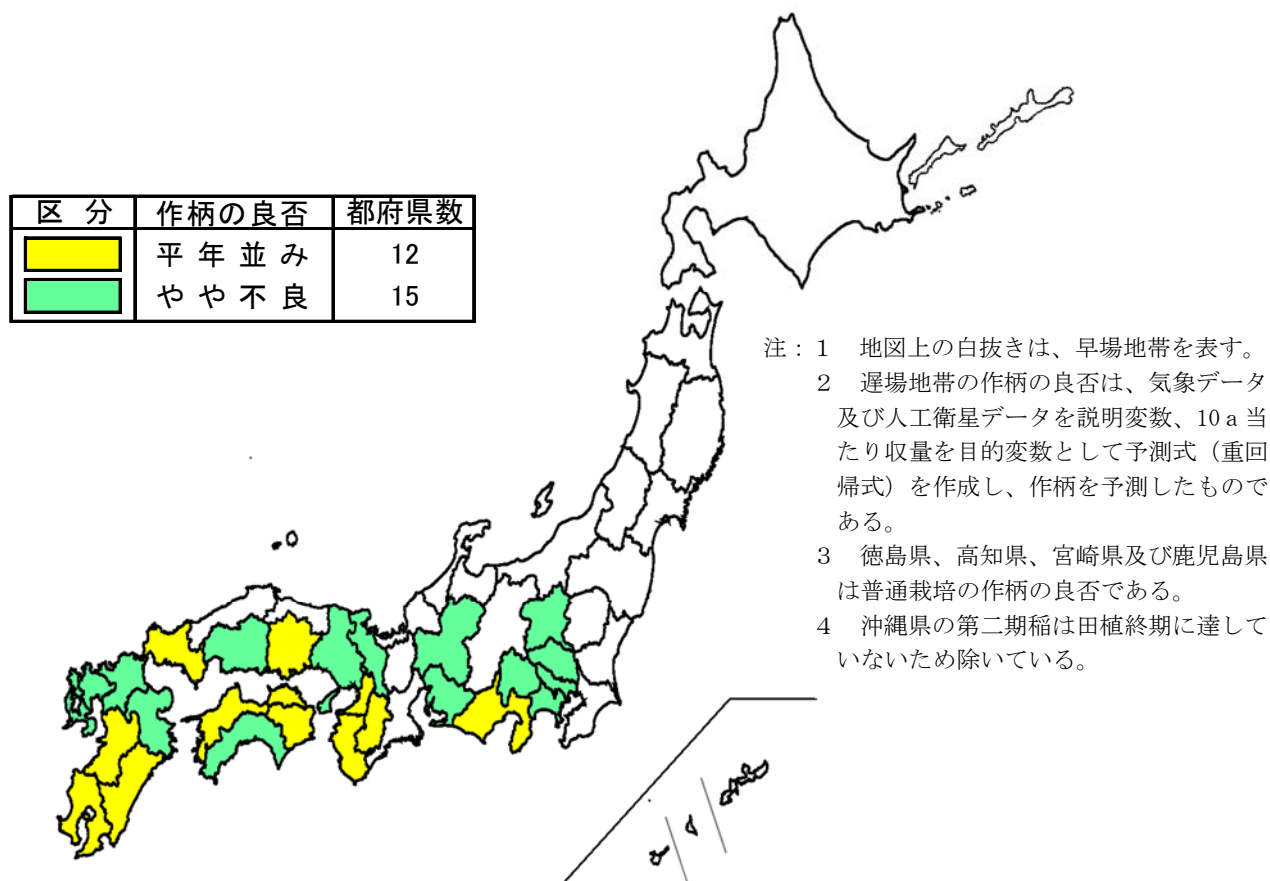
3 令和2年産水稻遅場地帯の作柄概況（8月15日現在）

区 分	作柄の良否 (平年比較)	区 分	作柄の良否 (平年比較)
群 馬	やや不良	広 島	やや不良
埼 玉	やや不良	山 口	平年並み
東 京	やや不良	徳 島 (普通栽培)	平年並み
神 奈 川	やや不良	香 川	平年並み
山 梨	やや不良	愛 媛	平年並み
岐 阜	やや不良	高 知 (普通栽培)	やや不良
静 岡	平年並み	福 岡	やや不良
愛 知	やや不良	佐 賀	やや不良
京 都	やや不良	長 崎	やや不良
大 阪	平年並み	熊 本	平年並み
兵 庫	やや不良	大 分	やや不良
奈 良	平年並み	宮 崎 (普通栽培)	平年並み
和 歌 山	平年並み	鹿 児 島 (普通栽培)	平年並み
岡 山	平年並み		

注：1 遅場地帯の作柄の良否は、気象データ（降水量、気温、日照時間、風速等）及び人工衛星データ（降水量、地表面温度、日射量、植生指数等）を説明変数、10a当たり収量を目的変数として予測式（重回帰式）を作成し、作柄を予測したものである。

2 本表における平年比較の表示区分は、「平年並み」が101～99%、「やや不良」が98～95%に相当する。

図2 遅場地帯の作柄の良否



4 令和2年産水稻の西南暖地における早期栽培等の作柄概況（8月15日現在）

(1) 10a 当たり予想収量

区 分	10 a 当たり 予想収量 ①	(参考) 農家等が使用している ふるい目幅で選別				(参考)	
		最 も 大きい割 合の目幅 ②	10 a 当 たり 予想収量 ③	10 a 当 たり 平年収量 ④	作 況 指 数 ⑤=③/④	作 付 面 積 (子実用、見込み) ⑥	予想収穫量 ⑦=①×⑥
	kg	mm	kg	kg		ha	t
徳 島	454	1.80	443	453	98	4,260	19,300
高 知	453	1.80	442	472	94	6,380	28,900
宮 崎	469	1.80	459	470	98	6,140	28,800
鹿 児 島	443	1.80	431	443	97	4,310	19,100
沖 縄	367	1.80	359	351	102	479	1,760

- 注：1 ①10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
 2 ③10a 当たり予想収量、④10a 当たり平年収量及び⑤作況指数については、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も大きい割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
 3 沖縄県は第一期稲である（(2)の統計表において同じ。）
 4 ⑥作付面積（子実用、見込み）は、関係機関等からの情報収集により把握した現時点での見込みの面積（参考値）であり、今後変動する可能性がある。

(2) 作柄概況及び刈取済面積割合

区 分	作柄概況（平年比較）				刈取済面積割合	
	穂数の多少	1穂当たり もみ数の多少	全もみ数の多少	登熟の良否	当年値	対平年差
					%	ポイント
徳 島	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良	5	△ 11
高 知	やや少ない	やや多い	やや多い	不良	85	2
宮 崎	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良	97	△ 2
鹿 児 島	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	74	△ 13
沖 縄	平年並み	平年並み	やや多い	やや良	100	0

- 注：1 本表における平年比較の表示区分は、「多い・良」が対平年比106%以上、「やや多い・やや良」が105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや少ない・やや不良」が98～95%、「少ない・不良」が94%以下に相当する。
 2 刈取済面積割合の対平年差欄の「△」は、平年より少ないことを示す。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作柄概況調査として実施したものであり、水稻の作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給見通しの策定、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

(1) 調査の範囲

ア 調査は、全国の各都道府県を対象に、次表の区分に応じて実施している。

区 分	調査対象都道府県	備 考
早場 地帯	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、千葉県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、三重県、滋賀県、鳥取県、島根県	8月15日現在の出穂済面積割合が、平年ベースでおおむね8割以上を占める道県
遅場 地帯	早場地帯の道県以外の都府県	8月15日現在の調査において、実測調査は行わない

注： 沖縄県の第二期稲については、8月15日現在で田植前の地域があり、田植期等の判断ができないことから、本資料において調査結果を表記していない。

イ なお、早期栽培の面積割合がおおむね3割以上を占める徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県における早期栽培並びに沖縄県の第一期稲については、西南暖地における早期栽培等として別に集計している。

(2) 調査対象の選定

水稻が栽培されている耕地

(3) 調査対象数

作況標本筆：5,812筆 作況基準筆：300筆

3 調査事項

田植期の遅速、出穂期の遅速、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種条件等

4 調査期日

令和2年8月15日現在における水稻の作柄概況を調査した。

5 調査・集計方法

(1) 早場地帯、西南暖地における早期栽培

ア 収穫量調査（調査期日において収穫期を迎えているもの）

(ア) 母集団

空中写真（衛星画像等）に基づき、全国の全ての土地を隙間なく区分した200m四方（北海道にあつては、400m四方）の格子状の区画のうち、田耕地が存在する区画を調査のための「単位区」とし、この単位区の集まりを母集団としている。

(イ) 階層分け

都道府県別に地域行政上必要な水稻の作柄を表示する区域として、水稻の生産力（地形、気象、栽培品種等）により分割した区域を「作柄表示地帯」として設定し、この作柄表示地帯ごとに収量の高低、年次変動、収量に影響する条件等を指標とした階層分けを行っている。

(ウ) 標本配分及び抽出

都道府県別の標本数を階層別に水稻の作付面積に10 a 当たり収量の母標準偏差を乗じた積に比例して配分する。

階層別に配分された標本数を単位区の水稲作付面積（田台帳面積）に比例した確率で抽出する確率比例抽出法により標本単位区を抽出する。抽出された標本単位区内で、水稻が作付けされている筆から1筆を無作為に選定し、作況標本筆（実測調査を行う筆）とする。

(エ) 作況標本筆の実測

作況標本筆の対角線上の3か所を系統抽出法により調査箇所を選定し、株数、穂数、もみ数等の実測調査を行う。

(オ) 10 a 当たり玄米重の算定

各作況標本筆について、一定株数（ 1 m^2 分×3か所の株数）の稲を刈り取り、脱穀・乾燥・もみすりを行った後に、飯用に供し得る玄米（農産物規格規程（平成13年2月28日農林水産省告示第244号）に定める三等以上の品位を有し、かつ、粒厚が1.70mm以上であるもの）となるように選別し、10 a 当たり玄米重を決定する。

(カ) 10 a 当たり収量の推定

各作況標本筆の10 a 当たり玄米重を基に、都道府県別の10 a 当たり玄米重平均値を推定し、これにコンバインのロス率（コンバインを使用して収穫する際に発生する収穫ロス）や被害データ等を加味して検討を行い、都道府県別の10 a 当たり収量を推定する。

さらに、作況基準筆（10 a 当たり収量を巡回・見積りにより把握する際の基準とするものとして有意に選定した筆をいう。）の実測結果及び特異な被害が発生した際に設置する被害調査筆の実測結果を基準とした巡回・見積り並びに情報収集による作柄及び被害の見積りによって推定値を補完する。

(キ) 収穫量及び被害量

作況標本筆の刈取り調査結果から推定した10 a 当たり収量に作付面積を乗じて収穫量を求める。

被害量は、農作物に被害が発生した後、生育段階に合わせて被害の状況を巡回・見積りで把握する。また、特異な被害が発生した場合は、被害調査筆を設置して調査を実施し把握する。

イ 作柄概況調査（調査期日において収穫期を迎えていないもの）

アの収穫量調査と同じ。

ただし、実測を行えない事項は、過去の調査結果や気象データにより、地方農政局等の職員が予測し、取りまとめている。

なお、予測した10 a 当たり収量は、未確定の要素が多いことから公表していない。

(2) 遅場地帯における作柄の良否の把握

気象データ（降水量、気温、日照時間、風速等）及び人工衛星データ（降水量、地表温度、日射量、植生指数等）を説明変数、10 a 当たり収量を目的変数として予測式（重回帰式）を作成し、作柄を予測したものである。

遅場地帯の作柄の良否については実測調査を伴わない予測結果であり、穂数、もみ数等の実測調査及び気象データに基づき予測を行っている早場地帯とは予測の仕方が異なる。

なお、予測した10 a 当たり収量は、未確定の要素が多いことから公表していない。

6 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米等を指す。
- (2) 「作柄の良否」とは、10a 当たり予想収量が平年と比較して多いか少ないかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (3) 「穂数の多少」とは、1m²当たりの穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についているもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「全もみ数の多少」とは、1m²当たりのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (6) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (7) (3)から(6)までの平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した1m²当たり穂数等の平年値との比較である。
- (8) 「作況指数」とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり収量の比率である。

なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までの作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出していた。令和2年産以降の作況指数は、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も大きい割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

令和2年産の作況指数の算出に用いるふるい目幅							
都道府県	農家等 使用目幅	都道府県	農家等 使用目幅	都道府県	農家等 使用目幅	都道府県	農家等 使用目幅
北海道	1.90mm	東京	1.80mm	滋賀	1.90mm	香川	1.80mm
青森	1.90mm	神奈川	1.80mm	京都	1.85mm	愛媛	1.85mm
岩手	1.90mm	新潟	1.85mm	大阪	1.80mm	高知	1.80mm
宮城	1.90mm	富山	1.90mm	兵庫	1.85mm	福岡	1.85mm
秋田	1.90mm	石川	1.85mm	奈良	1.80mm	佐賀	1.85mm
山形	1.90mm	福井	1.90mm	和歌山	1.80mm	長崎	1.80mm
福島	1.85mm	山梨	1.80mm	鳥取	1.85mm	熊本	1.85mm
茨城	1.85mm	長野	1.85mm	島根	1.90mm	大分	1.80mm
栃木	1.85mm	岐阜	1.80mm	岡山	1.85mm	宮崎	1.80mm
群馬	1.80mm	静岡	1.80mm	広島	1.85mm	鹿児島	1.80mm
埼玉	1.80mm	愛知	1.85mm	山口	1.85mm	沖縄	1.80mm
千葉	1.80mm	三重	1.85mm	徳島	1.80mm		

- (9) 「10a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10a 当たり収量をいう。

7 利用上の注意

(1) 統計数値については、次の方法で四捨五入している。

原 数		7 桁以上 (100万)	6 桁 (10万)	5 桁 (1 万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数 (下から)		3 桁	2 桁		1 桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前 (原数)	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値 (統計数値)	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

(2) この統計表に記載された数値等を他に転載する場合は、「令和2年産水稻の8月15日現在における作柄概況」(農林水産省)による旨を記載してください。

8 その他

本調査における作柄概況(8月15日現在)は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

【ホームページ掲載案内】

○ 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査(水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物)」で御覧いただけます。

【 https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y2 】

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省>組織別から探す>政策統括官

https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/

お問合せ先

◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部
生産流通消費統計課 普通作物統計班
電話：(代表) 03-3502-8111 内線3682
(直通) 03-3502-5687
FAX： 03-5511-8771

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部
統計企画管理官 統計広報推進班
電話：(代表) 03-3502-8111 内線3589
(直通) 03-6744-2037
FAX： 03-3501-9644



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)
<https://www.e-stat.go.jp/>